



ゆかりびと

第 17 回

作新学院高校1年

千野根 友輝

さん



仲間へつなぐ櫂に想いをのせて 次なる目標は「箱根駅伝」

「駅伝の楽しさはチームのために櫂をつなぐこと」そう話す友輝さんは、作新学院高校・陸上部に所属し、昨年11月に開催された全国高校駅伝の出場権をかけた栃木県高校駅伝・男子で、1年生ながら4区を任せられ、チームの勝利に貢献しました。この大会で作新学院高校が優勝したのは34年ぶり2度目。年末には全国大会に挑み、高校駅伝の憧れ「都大路」を駆け抜けました。友輝さんが駅伝を始めたのは、中学校時代。先生に勧められ、ソフトテニス部と掛け持ちして大会などに出ていましたが、陸上経験が長く実力のある後輩が入部したことがきっかけで、「負けたくない」という思いからどんどん駅伝に没頭していききました。

高校での部活は、施設が充実していたり、実力者がたくさんいて良い刺激がもらえたり、成長するための環境が整っていると言います。とはいえ毎日の練習は、一人ひとりの実力に合わせた個別トレーニング。その内容はひたすら自分と向き合う地道なトレーニングばかりだとか。それでも「チームの勝利のため、いつでもベストの走りで櫂をつなぎたいから」と話す友輝さん。チームが丸となって戦う楽しさ、櫂をつなぐ喜びが、練習の原動力になっているようです。そして2月に出場した大会で、自己ベストを更新。1年生ながら都大路を駆け抜けた経験や、日々の地道な練習は、着実に自身の力となり、成長につながっています。

「今後の夢は？」という質問に、「箱根駅伝に出場すること」と答える友輝さん。仲間と切磋琢磨しながら、夢の大舞台を目指します。

Editor's Note 編集後記

▷ゆかりびと・友輝さんは、取材に淡々と答えるしっかり者の高校1年生。最後に笑顔のガッツポーズをいただきましたが、お父さん曰く、家では見ない表情だそう。実は緊張させていた?と反省。秒で心をつかむ技、欲しいです(DYC)

▷ジムで自己流で筋トレしても効果を実感できず、石井さんの特別トレーニング教室に参加しました。全身に効くトレーニング方法や器具の正しい使い方を教わり、1回目で全身筋肉痛になりました。鍛えなおします…!(あ)